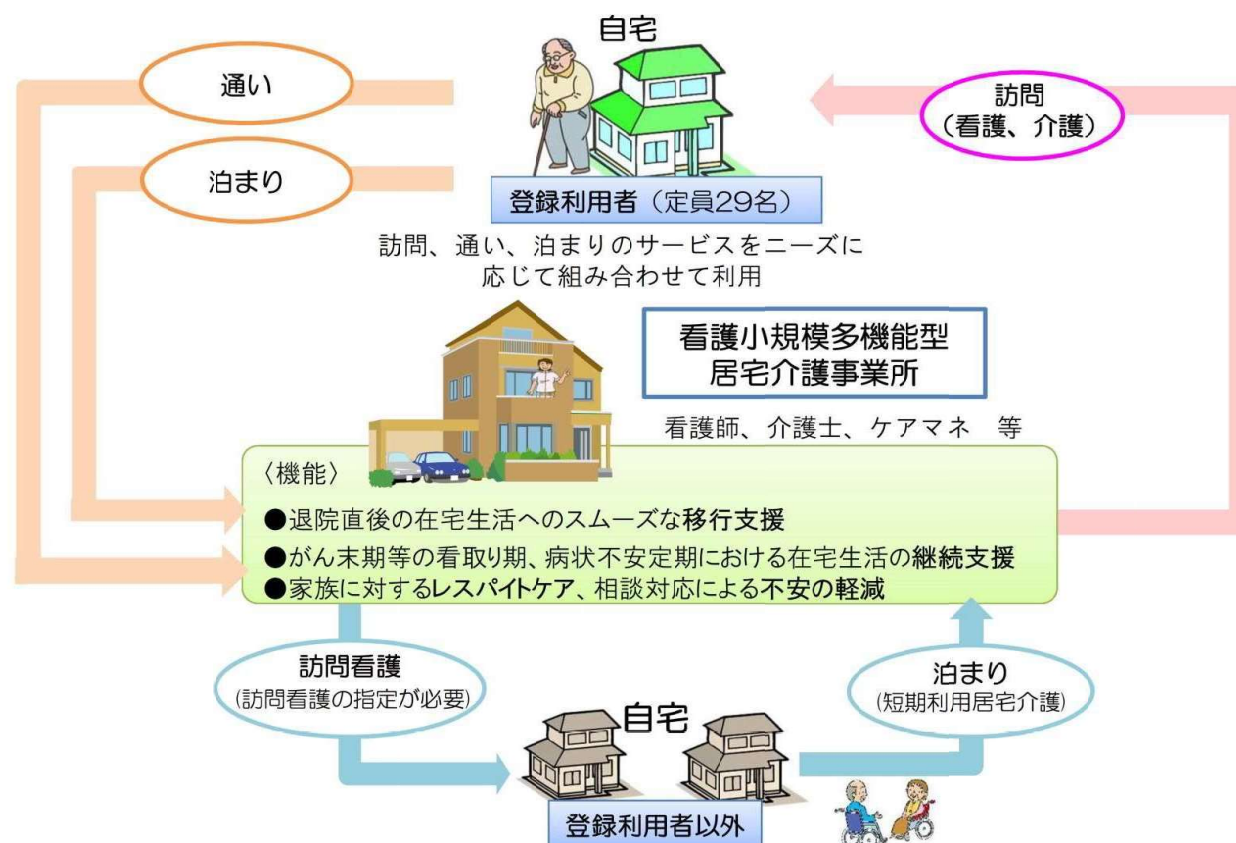


看護小規模多機能型居宅介護の概要

- 退院後の在宅生活への移行や、看取り期の支援、家族に対するレスパイト等への対応等、利用者や家族の状態やニーズに応じ、主治医との密接な連携のもと、医療行為も含めた多様なサービス（「通い」、「泊まり」、「訪問（看護・介護）」）を24時間365日提供。
- また、登録利用者以外に対しても、訪問看護（訪問看護の指定が必要）や宿泊サービスを提供するなど、医療ニーズも有する高齢者の地域での生活を総合的に支える。



厚生労働省資料より

看護小規模多機能型居宅介護の変遷

年	内容
平成24	<p>複合型サービスの創設 小規模多機能型居宅介護と訪問看護の機能を有した「複合型サービス」として創設 〈基本報酬（1月につき）〉 要介護1 13,255単位、要介護2 18,150単位、要介護3 25,111単位、要介護4 28,347単位、要介護5 31,934単位</p>
平成27	<p>名称改称 「複合型サービス」→「看護小規模多機能型居宅介護」 サービス内容を具体的にイメージできるように改称（運営基準事項）</p> <p>訪問看護体制強化加算（新設） 中重度の要介護者の医療ニーズに重点的な対応を行っている事業所を評価 2,500単位／月</p>
平成30	<p>看護体制強化加算（見直し） 医療ニーズに対応できる介護職員との連携体制やターミナルケアの体制をさらに整備 2,500単位／月 → 看護体制強化加算（Ⅰ）3,000単位／月（新設） 看護体制強化加算（Ⅱ）2,500単位／月</p> <p>緊急時訪問看護加算（見直し） 中重度の要介護者の在宅生活を支える体制をさらに整備するため、24時間体制を評価 540単位／月 → 574単位／月</p> <p>訪問体制強化加算（新設） 訪問を担当する従業者を一定以上配置し、1ヶ月あたり延べ訪問回数が一定以上の事業所に対する評価 1,000単位／月</p> <p>指定基準の緩和（省令改正） サービス供給量を増やす観点から、診療所の参入を推進 診療所が有する病床について宿泊室を兼用することを可能とする（新設） 指定を受けるに当たっては 法人であること→法人又は病床を有する診療所を開設している者であること</p> <p>サテライト型事業所の創設（省令改正） サービス供給量を増やす観点及び効率化を図る観点からサテライト型事業所を創設</p>

厚生労働省資料より

● 第8期 東京都高齢者保健福祉計画 (抜粋)

〔看護小規模多機能型居宅介護〕

- 看護小規模多機能型居宅介護は、医療ニーズの高い要介護者への支援の充実を図るため、利用者の状態に応じ、小規模多機能型居宅介護と訪問看護とを組み合わせ、介護と看護のサービスを柔軟に提供するサービスで、平成24年度に創設されました¹³。
- 看護小規模多機能型居宅介護では、主治医と事業所との密接な連携の下で、医療行為も含めた多様なサービスを24時間365日利用することができ、事業所の介護支援専門員が「通い」、「泊まり」、「訪問看護」及び「訪問介護」のサービスを一元的に管理するため、利用者や家族の状態に即応できるサービスを組み合わせることができます。このため、医療ニーズの高い要介護者を支える有効なサービスとして、都内でも積極的に普及させていく必要があります。
- 看護小規模多機能型居宅介護については、看護・介護職員の確保が難しいこと、利用者の新規確保が困難なこと等運営上の課題があり、令和3年3月1日時点の整備量は53か所にとどまる見込みです。⇒令和4年10月1日時点 61か所（うち区部35か所）

● 第8期 豊島区高齢者福祉計画・介護保険事業計画 (抜粋)

事業指標	現状	目標
看護小規模多機能型居宅介護の拠点数（登録定員数）	0か所（0人）	2か所（58人）